

学校経営推進費 評価報告書（1年目）

表記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	「生徒の学力の充実」
評価指標	①「全国高等学校ビブリオバトル」等の大会連続代表出場と大会成績の向上、校内大会の定例化 ②読書実態調査における「一カ月の読書冊数」の増加 ③教育産業の学力生活実態調査「平日の自宅学習時間（ラーニング・commonsでの学習を含む）」の増加
計画名	主体的な学びの広場「学習支援型図書室ラーニング・commons」創設プロジェクト

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	1.【授業革命】で「ジェネリック・スキル（汎用的能力）」を育成！（基礎学力の定着と向上）（進路実現） (1)生徒の主体的・能動的な学び姿勢を引き出すことで「ジェネリック・スキル（汎用的能力）」を育成し、「自己肯定感」を高め、「進路実現」を強力サポートする。 (2)【骨太の日本語力養成プロジェクト】～生きる力の源泉「言葉のチカラ（言語技術）」を徹底マスター ア語彙力増強を意図し、図書室を学習支援型のラーニング・commons」として、各種の情報や仕掛けを間断なく提供していく。
事業目標	【第3次大阪府子ども読書活動推進計画の一環として】利用者がほとんどいない本校図書室を、図書室コーディネーターなど専門家との協力のもと、生徒の主体的な学びのスペース「学習支援型図書室ラーニングcommons」として蘇らせる。可動式のテーブルや椅子を組み合わせて、自由な発想で生徒各自のニーズに合わせた自主的な学習活動を可能にするスペースを創出する。Teaching（教員が教えること）からLearning（生徒が主体的に学ぶこと）へ。グループでのディスカッションや仲間との教えあい・学びあいなど、会話をしながらの学習が可能なスペースとする。学ぶことの本来の楽しさを取り戻し、自ら積極的に学ぶ姿勢を身につけ、授業以外の勉強時間ゼロからの脱却をめざし、自学自習の習慣を身につけるサポートとしたい。また正規授業でも、アクティブ・ラーニングの実践チャレンジ道場として利用することができるスペースとする。紙媒体に限らず、無線LANを通じてタブレット端末で電子資料にも気軽にアクセス可能にする。
整備した 設備・物品(数量)	・可動式ワークテーブル&チェア×42人分、タブレット端末×42台（ケース含む）、無線画像転送装置×2台、プロジェクター一体型ホワイトボード1台、教卓1台、無線LANアクセスポイント2台、タブレット管理用パソコン1台、タブレット保管庫2台 ・講師（図書館コーディネーター、作家など）の招聘
取組みの 主担・実施者	取組みの主担：教科横断的なラーニング・commons運営プロジェクトチーム、 取組みの実施者：100%全教員予定
本年度の 取組内容	・図書館での校内ビブリオバトルの実施 ・無線LANを用いての授業実施 ・可動式テーブルおよびチェアを活用しての発表形式の授業実施
成果の検証方法 と評価指標	①全国高等学校ビブリオバトル（3年連続）、中高生ビブリオバトル大阪大会（2年連続）出場と校内大会の学期間2回開催。 ②学校独自に読書実態調査を実施して生徒の実態を把握し、「一カ月の読書冊数」全国平均（1.7冊）と比較して目標設定。 ③教育産業の学力生活実態調査「平日の授業以外の学習時間」平均30分未満の学習者48.4%→30%、「ほぼ毎日、自宅学習する」18.6%→40%
自己評価	※（記号説明）大きく上回った（◎）、上回った（○）、達成できず（△）、実施できず（×） ①全国高等学校書評合戦ビブリオバトル関西大会に本校生徒が1名出場、第2回大阪府中高生ビブリオバトル大会に本校生徒1名が出演。また、ビブリオバトル校内大会については、校内予選を年間6回実施した。（○） ②ビブリオバトル校内大会実施の影響を受け、生徒における図書への関心度が高まってきている。積極的に学校図書館の活性化を仕掛けたことで、本校の「一カ月の読書冊数」は3.2冊と全国平均冊数を大きく上回ることができた。（○） ③「平日の授業以外の学習時間」平均30分未満の学習者は54.1% 「ほぼ毎日、自宅学習する」は14.2%（△）
次年度に向けて	・ビブリオバトルについては取組が定着しているものの校内大会参加者が多いとは言えない。次年度は、参加人数増加のためにプリント配布だけでなく、HR等でビブリオバトル大会の様子を紹介することによって、大会の魅力を知らせるとともに読書量の増加も図っていききたい。 ・家庭学習時間は、放課後の図書館だけでなく自習スペースを増加させることにより、ディスカッション・教えあい・学びあいの場を提供することによって、学ぶことの本来の楽しさを実感させ増加を図っていききたい。 ・また、教員のアクティブ・ラーニングの実践チャレンジの場としても積極的に活用していききたい。